

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2018（2019年更新版）に準拠して作成

入眠剤

日本薬局方 ゾルピデム酒石酸塩錠

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

ZOLPIDEM TARTRATE Tablets 「TCK」

剤形	フィルムコーティング錠
製剤の規制区分	向精神薬（第三種向精神薬）、習慣性医薬品（注意-習慣性あり）、処方箋医薬品（注意-医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	錠5mg：1錠中にゾルピデム酒石酸塩（日局）を5mg含有する。 錠10mg：1錠中にゾルピデム酒石酸塩（日局）を10mg含有する。
一般名	和名：ゾルピデム酒石酸塩（JAN） 洋名：Zolpidem Tartrate（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・販売開始年月日	製造販売承認年月日：2012年2月15日 薬価基準収載年月日：2012年6月22日 販売開始年月日：2012年6月22日
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元 辰巳化学株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	辰巳化学株式会社 薬事・学術課 TEL:076-247-2132 FAX:076-247-5740 医療関係者向け情報 https://www.tatsumi-kagaku.com/public/info_medical/list.php

本IFは2023年11月改訂（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

医薬品インタビューフォーム利用の手引きの概要－日本病院薬剤師会－

(2020年4月改訂)

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、I Fと略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第2小委員会がI Fの位置付け、I F記載様式、I F記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がI F記載要領の改訂を行ってきた。I F記載要領2008以降、I FはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したI Fが速やかに提供されることとなった。最新版のI Fは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ（<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>）にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のI Fの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のI Fが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせて、I F記載要領2018が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

I Fに記載する項目配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・

判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

I F の提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

3. I F の利用にあたって

電子媒体の I F は、PMD A の医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って I F を作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を PMD A の医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I F を日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。I F は日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には薬機法の広告規則や医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR 等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らが I F の内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、I F を活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

目次

I.	概要に関する項目	1	8.	トランスポーターに関する情報	19
1.	開発の経緯	1	9.	透析等による除去率	19
2.	製品の治療学的特性	1	10.	特定の背景を有する患者	19
3.	製品の製剤学的特性	1	11.	その他	19
4.	適正使用に関して周知すべき特性	1	VIII.	安全性（使用上の注意等）に関する項目	20
5.	承認条件及び流通・使用上の制限事項	1	1.	警告内容とその理由	20
6.	RMP の概要	1	2.	禁忌内容とその理由	20
II.	名称に関する項目	2	3.	効能又は効果に関連する注意とその理由	20
1.	販売名	2	4.	用法及び用量に関連する注意とその理由	20
2.	一般名	2	5.	重要な基本的注意とその理由	20
3.	構造式又は示性式	2	6.	特定の背景を有する患者に関する注意	21
4.	分子式及び分子量	2	7.	相互作用	22
5.	化学名（命名法）又は本質	2	8.	副作用	22
6.	慣用名、別名、略号、記号番号	2	9.	臨床検査結果に及ぼす影響	24
III.	有効成分に関する項目	3	10.	過量投与	24
1.	物理化学的性質	3	11.	適用上の注意	24
2.	有効成分の各種条件下における安定性	3	12.	その他の注意	25
3.	有効成分の確認試験法、定量法	3	IX.	非臨床試験に関する項目	26
IV.	製剤に関する項目	4	1.	薬理試験	26
1.	剤形	4	2.	毒性試験	26
2.	製剤の組成	4	X.	管理的事項に関する項目	27
3.	添付溶解液の組成及び容量	5	1.	規制区分	27
4.	力価	5	2.	有効期間	27
5.	混入する可能性のある夾雑物	5	3.	包装状態での貯法	27
6.	製剤の各種条件下における安定性	5	4.	取扱い上の注意	27
7.	調製法及び溶解後の安定性	8	5.	患者向け資材	27
8.	他剤との配合変化（物理化学的変化）	8	6.	同一成分・同効薬	27
9.	溶出性	9	7.	国際誕生年月日	27
10.	容器・包装	12	8.	製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準取載年月日、販売開始年月日	27
11.	別途提供される資材類	12	9.	効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	28
12.	その他	12	10.	再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	28
V.	治療に関する項目	13	11.	再審査期間	28
1.	効能又は効果	13	12.	投薬期間制限に関する情報	28
2.	効能又は効果に関連する注意	13	13.	各種コード	28
3.	用法及び用量	13	14.	保険給付上の注意	28
4.	用法及び用量に関連する注意	13	XI.	文献	29
5.	臨床成績	13	1.	引用文献	29
VI.	薬効薬理に関する項目	15	2.	その他の参考文献	29
1.	薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	15	XII.	参考資料	30
2.	薬理作用	15	1.	主な外国での発売状況	30
VII.	薬物動態に関する項目	16	2.	海外における臨床支援情報	30
1.	血中濃度の推移	16	XIII.	備考	31
2.	薬物速度論的パラメータ	18	1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	31
3.	母集団（ポピュレーション）解析	18	2.	その他の関連資料	32
4.	吸収	18			
5.	分布	18			
6.	代謝	19			
7.	排泄	19			

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「TCK」／錠 10mg「TCK」は、辰巳化学株式会社が後発医薬品として開発を企画し、薬食発第 0331015 号（2005 年 3 月 31 日）に基づき、承認申請し、2012 年 2 月に承認を得て、2012 年 6 月発売に至った。

2. 製品の治療学的特性

本剤は、ゾルピデム酒石酸塩（日局）を有効成分とする入眠剤である。

主な副作用としてふらつき、眠気、悪心、倦怠感、口渇がある。重大な副作用として、依存性、離脱症状、精神症状、意識障害、一過性前向き健忘、もうろう状態、睡眠随伴症状（夢遊症状等）、呼吸抑制、肝機能障害、黄疸があらわれることがある。（「VIII. 8. 副作用」の項参照）

3. 製品の製剤学的特性

特になし

4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資材、 最適使用推進ガイドライン等	有無
RMP	無
追加のリスク最小化活動として 作成されている資材	無
最適使用推進ガイドライン	無
保険適用上の留意事項通知	無

5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

(1) 承認条件

該当しない

(2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

6. RMP の概要

該当しない

II. 名称に関する項目

1. 販売名

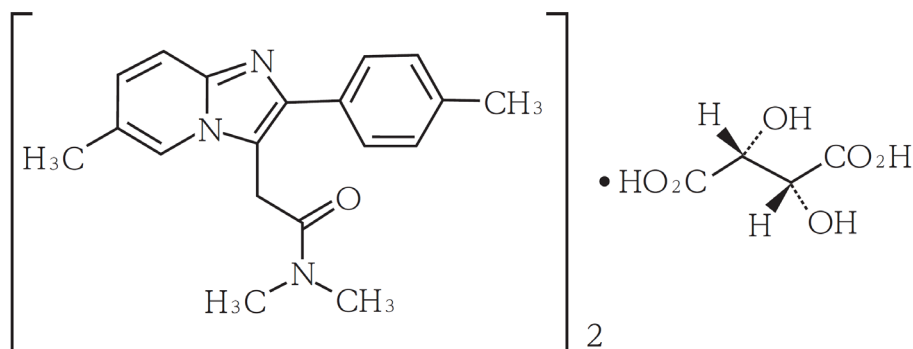
- (1) 和名：ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」
- (2) 洋名：ZOLPIDEM TARTRATE Tablets 5mg 「TCK」
ZOLPIDEM TARTRATE Tablets 10mg 「TCK」
- (3) 名称の由来
有効成分に係る一般的名称+剤型+含量+屋号

2. 一般名

- (1) 和名：ゾルピデム酒石酸塩 (JAN)
- (2) 洋名：Zolpidem Tartrate (JAN)
Zolpidem (INN)
- (3) ステム：催眠鎮静剤、ゾルピデム誘導体：-pidem

3. 構造式又は示性式

構造式：



4. 分子式及び分子量

分子式： $(C_{19}H_{21}N_3O)_2 \cdot C_4H_6O_6$

分子量：764.87

5. 化学名（命名法）又は本質

N,N,N-Trimethyl-2-(4-methylphenyl)imidazo[1,2- α]pyridine-3-acetamide hemi-(2*R*,3*R*)-tartrate
(IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末である。

光によって徐々に黄色となる。

(2) 溶解性

酢酸（100）に溶けやすく、*N,N*-ジメチルホルムアミド又はメタノールにやや溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール（99.5）又は無水酢酸に溶けにくい。

0.1mol/L 塩酸試液に溶ける。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法、定量法

確認試験法

日本薬局方による

定量法

日本薬局方による







IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別

錠剤（フィルムコーティング錠）

(2) 製剤の外観及び性状

販売名	外形			色調 剤形
	直径(mm)	厚さ(mm)	重量(mg)	
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「TCK」	 6.6	 2.7	 93	淡いだいだい色 フィルム コーティング錠 (割線入り)
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「TCK」	 8.6	 3.3	 185	淡いだいだい色 フィルム コーティング錠 (割線入り)

(3) 識別コード

販売名	本体	包装材料
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「TCK」	TU 103	TU 103
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「TCK」	TU 105	TU 105

(4) 製剤の物性

該当資料なし

(5) その他

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量及び添加剤

販売名	有効成分（1錠中）	添加剤
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「TCK」	ゾルピデム酒石酸塩 (日局) 5mg	乳糖水和物、結晶セルロース、ヒプロメロース、デンプングリコール酸ナトリウム、含水二酸化ケイ素、ステアリン酸マグネシウム、マクロゴール 6000、酸化チタン、黄色三二酸化鉄、三二酸化鉄、カルナウバロウ
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「TCK」	ゾルピデム酒石酸塩 (日局) 10mg	

(2) 電解質等の濃度

該当しない

(3) 熱量

該当しない

3. 添付溶解液の組成及び容量

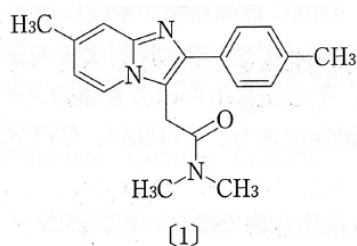
該当しない

4. 力価

該当しない

5. 混入する可能性のある夾雑物

混入が予想される類縁物質として 7-メチル体〔1〕が日本薬局方医薬品各条で規定されている。



6. 製剤の各種条件下における安定性

試験項目及び規格

試験項目	規格
性状	淡いだいだい色の片面割線入りフィルムコーティング錠
確認試験	紫外可視吸収スペクトル 規格：波長 235～239nm 及び 292～296nm に吸収の極大を示す
製剤均一性 (含量均一性)	判定値は 15.0%を超えない
溶出性	15 分間の溶出率は 80%以上である (パドル法、水、50rpm)
定量	表示量の 95.0～105.0%を含む

<加速試験>

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」¹⁾

保管条件：40±1°C、75±5%RH

包装形態：PTP 包装

試験結果：

	開始時	1 カ月後	3 カ月後	6 カ月後
性状	淡いだいだい色の 片面割線入り フィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
確認試験	適合	適合	適合	適合
製剤均一性	適合	適合	適合	適合
溶出性	適合	適合	適合	適合
定量 (%)	99.4	100.0	100.2	98.7
	99.8	99.5	100.7	98.6
	99.2	99.6	99.9	99.4

1 ロット n=3 3 ロット

●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」²⁾

保管条件：40±1°C、75±5%RH

包装形態：PTP 包装

試験結果：

	開始時	1 カ月後	3 カ月後	6 カ月後
性状	淡いだいだい色の 片面割線入り フィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
確認試験	適合	適合	適合	適合
製剤均一性	適合	適合	適合	適合
溶出性	適合	適合	適合	適合
定量 (%)	99.6	99.8	99.6	99.2
	99.5	99.7	99.7	99.5
	100.3	99.4	99.5	99.3

1 ロット n=3 3 ロット

<無包装下の安定性>

平成 11 年 8 月 20 日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について（答申）」
（日本病院薬剤師会）を参考に、無包装状態の試験を行った。

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

保存条件		試験項目	規格	結果			
				開始時	1 箇月	2 箇月	3 箇月
温度	40±2℃ 遮光 気密容器	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	5.9	6.1	5.8	6.1
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	93～104	93～105	96～104	86～103
		定量 (%)	95.0%～105.0%	100.6	101.4	98.6	101.3
湿度	25±1℃ 75±5%RH 遮光 開放	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	5.9	3.6	3.4	3.6
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	93～104	92～102	84～104	88～101
		定量 (%)	95.0%～105.0%	100.6	98.5	99.9	100.7

保存条件		試験項目	規格	結果	
				開始時	60 万 lx・hr
光	温度 なりゆき 1000lx/hr 気密容器	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	5.9	5.7
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	93～104	97～103
		定量 (%)	95.0%～105.0%	100.6	102.3

*1 n=10 の平均値

*2 n=6

●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

保存条件		試験項目	規格	結果			
				開始時	1 箇月	2 箇月	3 箇月
温度	40±2℃ 遮光 気密容器	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	7.0	7.2	6.5	7.0
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	96～100	87～95	95～99	92～104
		定量 (%)	95.0%～105.0%	97.8	98.1	97.0	97.7
湿度	25±1℃ 75±5%RH 遮光 開放	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	7.0	4.4	4.4	4.6
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	96～100	84～96	87～100	95～104
		定量 (%)	95.0%～105.0%	97.8	97.9	96.5	97.2

保存条件		試験項目	規格	結果	
				開始時	60 万 lx・hr
光	温度 なりゆき 1000lx/hr 気密容器	性状	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	淡いだいだい色の 片面割線入りフィルム コーティング錠	変化なし
		硬度*1 (kg)	2.0kg 以上 (参考)	7.0	6.9
		溶出性*2 (%)	15 分間、80%以上 (最小値～最大値)	96～100	80～97
		定量 (%)	95.0%～105.0%	97.8	98.2

*1 n=10 の平均値

*2 n=6

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

9. 溶出性

<溶出挙動における同等性>

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」³⁾

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（医薬審発第 786 号、2001 年 5 月 31 日）に従いゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」（試験製剤）とマイスリー錠 5mg（標準製剤）との溶出挙動の比較を行った結果、全ての溶出試験条件において同等性試験ガイドラインの溶出挙動の同等性の判定基準に適合した。

結果

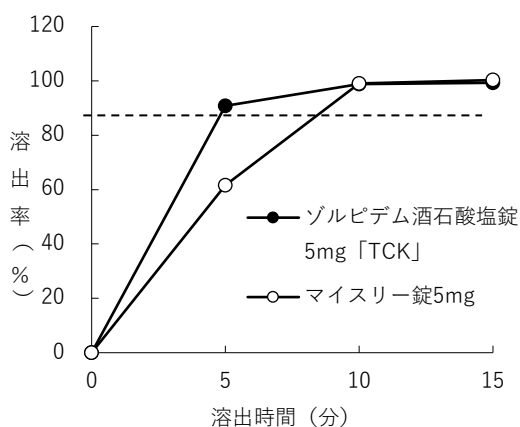
○pH 1.2（毎分 50 回転、毎分 100 回転）、pH 4.0（毎分 50 回転）、pH 6.8（毎分 50 回転）、水（毎分 50 回転）

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率は 15 分以内に 85%以上であった。

溶出試験条件		判定時間 (分)	平均溶出率 (%)		平均溶出率の 差 (%)
			マイスリー錠 5mg	ゾルピデム酒石酸塩 錠 5mg 「TCK」	
pH 1.2	50 回転/分	15	100.3	99.3	範囲内
pH 4.0	50 回転/分	15	99.0	99.8	範囲内
pH 6.8	50 回転/分	15	99.7	96.7	範囲内
水	50 回転/分	15	99.8	99.1	範囲内
pH 1.2	100 回転/分	15	99.8	98.8	範囲内

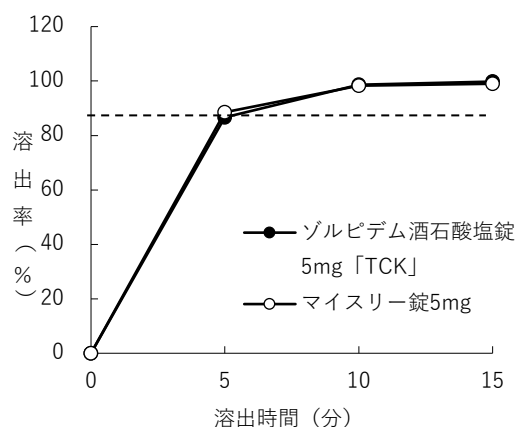
(n=12)

pH 1.2（毎分 50 回転）



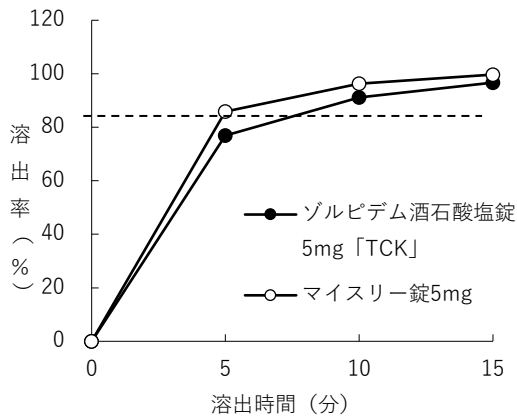
(n=12)

pH 4.0（毎分 50 回転）



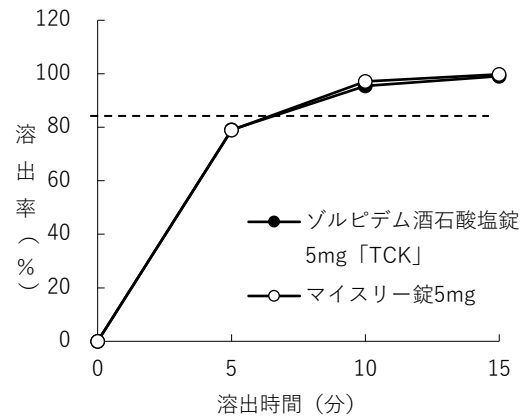
(n=12)

pH 6.8 (毎分 50 回転)



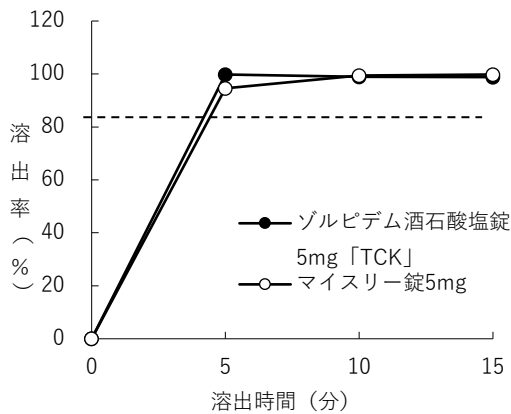
(n=12)

水 (毎分 50 回転)



(n=12)

pH 1.2 (毎分 100 回転)



(n=12)

---- 溶出率 85%

●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」⁴⁾

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン (医薬審発第 786 号、2001 年 5 月 31 日) に従いゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」 (試験製剤) とマイスリー錠 10mg (標準製剤) との溶出挙動の比較を行った結果、全ての溶出試験条件において同等性試験ガイドラインの溶出挙動の同等性の判定基準に適合した。

結果

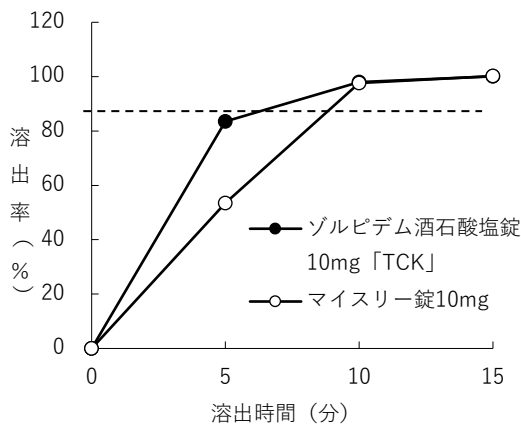
○pH 1.2 (毎分 50 回転)、pH 5.0 (毎分 50 回転)、pH 6.8 (毎分 50 回転、毎分 100 回転)、水 (毎分 50 回転)

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率は 15 分以内に 85%以上であった。

溶出試験条件		判定時間 (分)	平均溶出率 (%)		平均溶出率の 差 (%)
			マイスリー錠 10mg	ゾルピデム酒石酸塩 錠 10mg 「TCK」	
pH 1.2	50 回転/分	15	100.2	100.1	範囲内
pH 5.0	50 回転/分	15	100.0	99.8	範囲内
pH 6.8	50 回転/分	15	96.3	95.5	範囲内
水	50 回転/分	15	99.5	99.8	範囲内
pH 6.8	100 回転/分	15	100.2	98.7	範囲内

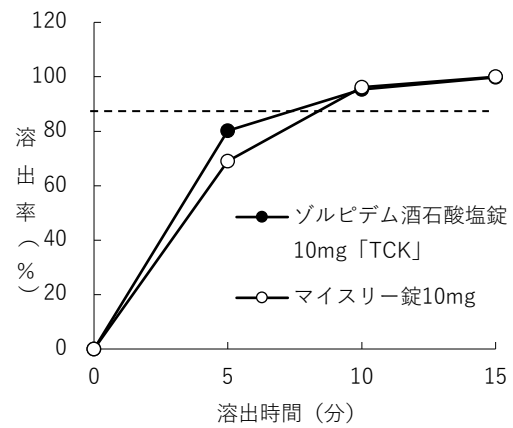
(n=12)

pH 1.2 (毎分 50 回転)



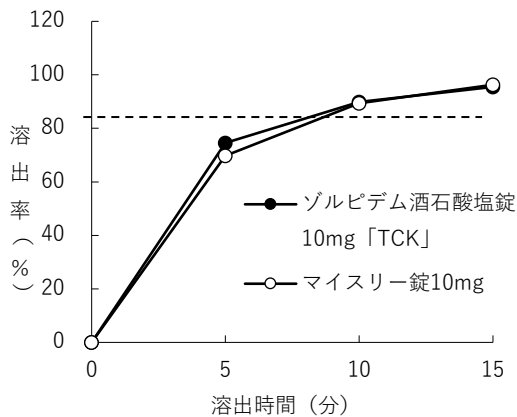
(n=12)

pH 5.0 (毎分 50 回転)



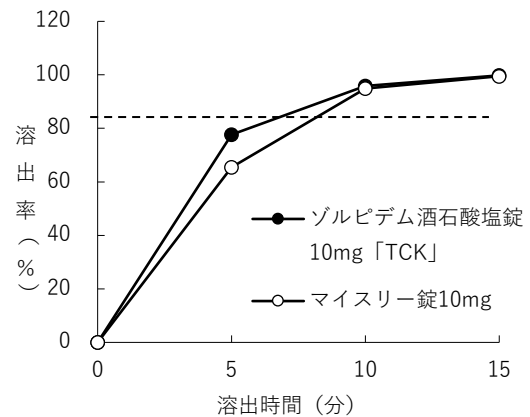
(n=12)

pH 6.8 (毎分 50 回転)



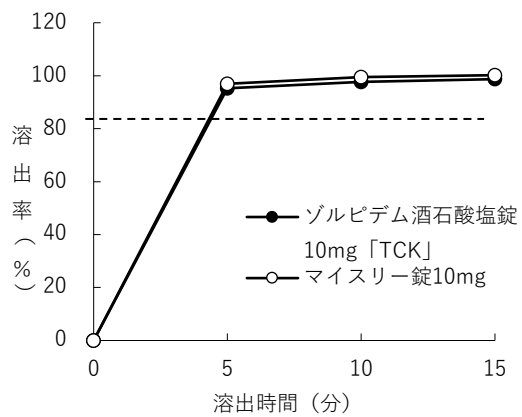
(n=12)

水 (毎分 50 回転)



(n=12)

pH 6.8 (毎分 100 回転)



--- 溶出率 85%

(n=12)

10. 容器・包装

(1) 注意が必要な容器・包装、外観が特殊な容器・包装に関する情報

該当資料なし

(2) 包装

<ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」>

100 錠 (10 錠 (PTP) × 10)

140 錠 (14 錠 (PTP) × 10)

500 錠 (10 錠 (PTP) × 50)

<ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」>

100 錠 (10 錠 (PTP) × 10)

140 錠 (14 錠 (PTP) × 10)

500 錠 (10 錠 (PTP) × 50)

(3) 予備容量

該当しない

(4) 容器の材質

包装形態	材質
PTP 包装	ポリプロピレンフィルム アルミニウム箔

11. 別途提供される資材類

無し

12. その他

該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

不眠症（統合失調症及び躁うつ病に伴う不眠症は除く）

2. 効能又は効果に関連する注意

5. 効能又は効果に関連する注意

本剤の投与は、不眠症の原疾患を確定してから行うこと。なお、統合失調症あるいは躁うつ病に伴う不眠症には本剤の有効性は期待できない。

3. 用法及び用量

(1) 用法及び用量の解説

通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。

(2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

4. 用法及び用量に関連する注意

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 本剤に対する反応には個人差があり、また、もうろう状態、睡眠随伴症状（夢遊症状等）は用量依存的にあらわれるので、本剤を投与する場合には少量（1回5mg）から投与を開始すること。やむを得ず増量する場合は観察を十分に行いながら慎重に投与すること。ただし、10mgを超えないこととし、症状の改善に伴って減量に努めること。[1.,7.2,11.1.3 参照]

7.2 本剤を投与する場合、就寝の直前に服用させること。また、服用して就寝した後、患者が起床して活動を開始するまでに十分な睡眠時間がとれなかった場合、又は睡眠途中において一時的に起床して仕事等を行った場合などにおいて健忘があらわれたとの報告があるので、薬効が消失する前に活動を開始する可能性があるときは服用させないこと。[1.,7.1,11.1.3 参照]

7.3 高齢者に投与する場合、少量（1回5mg）から投与を開始し、1回10mgを超えないこと。[9.8 参照]

5. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床薬理試験

該当資料なし

(3) 用量反応探索試験

該当資料なし

(4) 検証的試験

1) 有効性検証試験

該当資料なし

2) 安全性試験

該当資料なし

(5) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査（一般使用成績調査、特定使用成績調査、使用成績比較調査）、製造販売後ベース調査、製造販売後臨床試験の内容

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要

該当しない

(7) その他

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

非ベンゾジアゼピン系催眠薬

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

ベンゾジアゼピン系化合物ではないが、ベンゾジアゼピン結合部位に選択的に結合し、同様の作用を示す。ベンゾジアゼピン結合部位は抑制性神経伝達物質 GABA_A 受容体のサブユニットに存在し、ここに結合することにより GABA_A 受容体への GABA の親和性を高め、GABA_A 系の神経抑制機構を増強して催眠鎮静作用を示す⁵⁾。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 臨床試験で確認された血中濃度

生物学的同等性試験

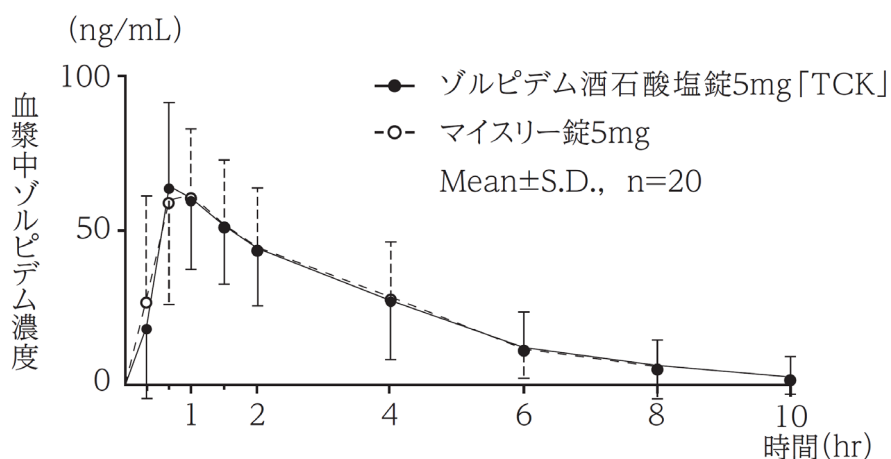
●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

生物学的同等性試験ガイドライン（医薬審発第 786 号 2001 年 5 月 31 日）

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」とマイスリー錠 5mg を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（ゾルピデム酒石酸塩 5mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された⁶⁾。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→10hr} (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」	231.73±129.12	67.60±23.65	0.79±0.22	2.18±1.07
マイスリー錠 5mg	234.62±121.40	71.93±29.08	0.83±0.35	2.08±0.84

(Mean±S.D., n=20)



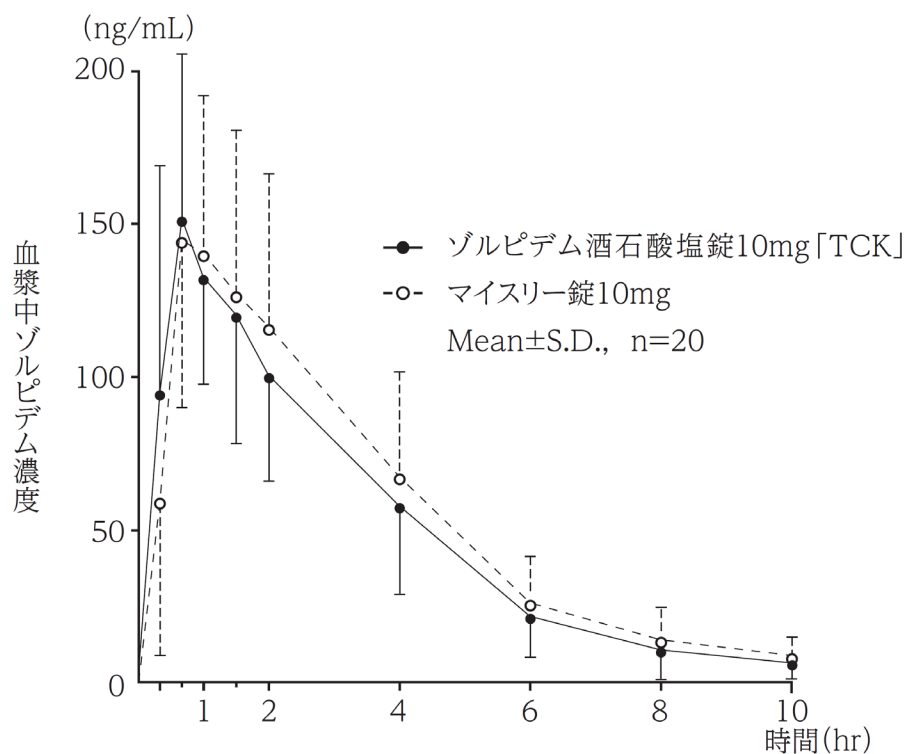
●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

生物学的同等性試験ガイドライン（医薬審発第 786 号 2001 年 5 月 31 日）

ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」とマイスリー錠 10mg を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（ゾルピデム酒石酸塩 10mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された⁷⁾。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→10hr} (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」	510.23±196.92	165.38±56.11	0.78±0.32	2.23±0.85
マイスリー錠 10mg	559.33±240.25	160.96±52.56	0.81±0.22	2.43±0.91

(Mean±S.D., n=20)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(3) 中毒域

該当資料なし

(4) 食事・併用薬の影響

「Ⅷ. 7. 相互作用」の項を参照すること。

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) 消失速度定数

該当資料なし

(4) クリアランス

該当資料なし

(5) 分布容積

該当資料なし

(6) その他

該当資料なし

3. 母集団（ポピュレーション）解析

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) パラメータ変動要因

該当資料なし

4. 吸収

該当資料なし

5. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

(6) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

6. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP等）の分子種、寄与率

本剤は、主として肝薬物代謝酵素 CYP3A4 及び一部 CYP2C9、CYP1A2 で代謝される。

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び活性比、存在比率

該当資料なし

7. 排泄

該当資料なし

8. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

9. 透析等による除去率

該当資料なし

10. 特定の背景を有する患者

該当資料なし

11. その他

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

1. 警告

本剤の服用後に、もうろう状態、睡眠随伴症状（夢遊症状等）があらわれることがある。また、入眠までの、あるいは中途覚醒時の出来事を記憶していないことがあるので注意すること。[7.1,7.2,11.1.3 参照]

2. 禁忌内容とその理由

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

2.2 重篤な肝障害のある患者 [9.3.1 参照]

2.3 重症筋無力症の患者 [筋弛緩作用により症状を悪化させるおそれがある。]

2.4 急性閉塞隅角緑内障の患者 [眼圧が上昇し、症状を悪化させるおそれがある。]

2.5 本剤により睡眠随伴症状（夢遊症状等）として異常行動を発現したことがある患者 [重篤な自傷・他傷行為、事故等に至る睡眠随伴症状を発現するおそれがある。]

3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

「V. 治療に関する項目」を参照すること。

4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

「V. 治療に関する項目」を参照すること。

5. 重要な基本的注意とその理由

8. 重要な基本的注意

8.1 連用により薬物依存を生じることがあるので、漫然とした継続投与による長期使用を避けること。本剤の投与を継続する場合には、治療上の必要性を十分に検討すること。[11.1.1 参照]

8.2 本剤の影響が翌朝以後に及び、眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起ることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

6. 特定の背景を有する患者に関する注意

(1) 合併症・既往歴等のある患者

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 肺性心、肺気腫、気管支喘息及び脳血管障害の急性期などで呼吸機能が高度に低下している患者

治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与しない。呼吸抑制により炭酸ガスナルコーシスを起こしやすい。[11.1.4 参照]

9.1.2 衰弱患者

薬物の作用が強くあらわれ、副作用が発現しやすい。

9.1.3 心障害のある患者

血圧低下があらわれるおそれがあり、症状の悪化につながるおそれがある。

9.1.4 脳に器質的障害のある患者

作用が強くあらわれるおそれがある。

(2) 腎機能障害患者

9.2 腎機能障害患者

排泄が遅延し、作用が強くあらわれるおそれがある。

(3) 肝機能障害患者

9.3 肝機能障害患者

9.3.1 重篤な肝障害のある患者

投与しないこと。代謝機能の低下により血中濃度が上昇し、作用が強くあらわれるおそれがある。[2.2 参照]

9.3.2 肝障害のある患者（重篤な肝障害のある患者を除く）

代謝機能の低下により血中濃度が上昇し、作用が強くあらわれるおそれがある。

(4) 生殖能を有する者

設定されていない

(5) 妊婦

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。本薬はヒトで胎盤を通過することが報告されており、妊娠後期に本剤を投与された患者より出生した児に呼吸抑制、痙攣、振戦、易刺激性、哺乳困難等の離脱症状があらわれることがある。なお、これらの症状は、新生児仮死として報告される場合もある。

(6) 授乳婦

9.6 授乳婦

授乳を避けさせること。母乳中へ移行することが報告されており、新生児に嗜眠を起こすおそれがある。

(7) 小児等

9.7 小児等

小児等を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は実施していない。

(8) 高齢者

9.8 高齢者

運動失調が起りやすい。また、副作用が発現しやすい。[7.3 参照]

7. 相互作用

10. 相互作用

本剤は、主として肝薬物代謝酵素 CYP3A4 及び一部 CYP2C9、CYP1A2 で代謝される。

(1) 併用禁忌とその理由

設定されていない

(2) 併用注意とその理由

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
麻酔剤	呼吸抑制があらわれることがあるので、慎重に投与すること。	相加的に呼吸が抑制される可能性がある。
中枢神経抑制剤 フェノチアジン 誘導体 バルビツール酸 誘導体 等	相互に中枢神経抑制作用が増強することがあるので、慎重に投与すること。	本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有する。
アルコール（飲酒）	精神機能・知覚・運動機能等の低下が増強することがあるので、できるだけ飲酒を控えさせること。	アルコールは GABA _A 受容体に作用すること等により中枢神経抑制作用を示すため、併用により相互に中枢神経抑制作用を増強することがある。
リファンピシン	本剤の血中濃度が低下し、作用が減弱するおそれがある。	薬物代謝酵素 CYP3A4 が誘導され、本剤の代謝が促進される。

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(1) 重大な副作用と初期症状

11.1 重大な副作用

11.1.1 依存性、離脱症状

連用により薬物依存（頻度不明）を生じることがあるので、観察を十分に行い、用量及び使用期間に注意し慎重に投与すること。また、連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、反跳性不眠、いらいら感等の離脱症状（0.1～5%未満）があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。[8.1 参照]

11.1.2 精神症状、意識障害

せん妄（頻度不明）、錯乱（0.1～5%未満）、幻覚、興奮、脱抑制（各 0.1%未満）、意識レベルの低下（頻度不明）等の精神症状及び意識障害があらわれることがある。

11.1.3 一過性前向き健忘（0.1～5%未満）、もうろう状態（頻度不明）、睡眠随伴症状（夢遊症状等）（頻度不明）

服薬後は直ぐ就寝させ、睡眠中に起こさないように注意すること。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶していないとの報告がある。また、死亡を含む重篤な自傷・他傷行為、事故等の報告もある。

[1.,7.1,7.2 参照]

11.1.4 呼吸抑制（頻度不明）

呼吸機能が高度に低下している患者に投与した場合、炭酸ガスナルコーシスを起こすことがあるので、このような場合には気道を確保し、換気をはかるなど適切な処置を行うこと。[9.1.1 参照]

11.1.5 肝機能障害、黄疸

AST、ALT、 γ -GTP、Al-P の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）があらわれることがある。

(2) その他の副作用

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
精神神経系	ふらつき、眠気、頭痛、残眠感、頭重感、めまい、不安、悪夢、気分高揚	錯視	しびれ感、振戦
血液	白血球増多、白血球減少	—	—
肝臓	ALT 上昇、 γ -GTP 上昇、AST 上昇、LDH 上昇	—	—

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
腎臓	蛋白尿	—	—
消化器	悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛	下痢	口の錯感覚、食欲亢進
循環器	動悸	—	—
過敏症	発疹、そう痒感	—	—
骨格筋	倦怠感、疲労、下肢脱力感	—	筋痙攣
眼	複視	—	視力障害、霧視
その他	口渇、不快感	—	味覚異常、転倒 ^{注1)}

注1) 転倒により高齢者が骨折する例が報告されている。

9. 臨床検査結果に及ぼす影響

設定されていない

10. 過量投与

13. 過量投与

13.1 症状

本剤単独の過量投与では、傾眠から昏睡までの意識障害が報告されているが、さらに中枢神経抑制症状、血圧低下、呼吸抑制、無呼吸等の重度な症状があらわれるおそれがある。

13.2 処置

本剤の過量投与が明白又は疑われた場合の処置としてフルマゼニル（ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤）を投与する場合には、使用前にフルマゼニルの使用上の注意を必ず読むこと。なお、本剤は血液透析では除去されない。

11. 適用上の注意

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

錠剤分割後は遮光保存すること。

14.2 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

12. その他の注意

(1) 臨床使用に基づく情報

15.1 臨床使用に基づく情報

投与した薬剤が特定されないままにフルマゼニル（ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤）を投与された患者で、新たに本剤を投与する場合、本剤の鎮静、抗痙攣作用が変化、遅延するおそれがある。

(2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 安全性薬理試験

該当資料なし

(3) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 遺伝毒性試験

該当資料なし

(4) がん原性試験

該当資料なし

(5) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(6) 局所刺激性試験

該当資料なし

(7) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

向精神薬（第三種向精神薬）、習慣性医薬品（注意—習慣性あり）、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

有効成分：ゾルピデム酒石酸塩 向精神薬、習慣性医薬品、処方箋医薬品

2. 有効期間

有効期間：3年

3. 包装状態での貯法

室温保存

4. 取扱い上の注意

設定されていない

5. 患者向け資材

患者向医薬品ガイド：有り

くすりのしおり：有り

その他の患者用資料：ゾルピデム酒石酸塩錠「TCK」を服用される患者様へ

（辰巳化学株式会社ホームページ 医療関係者向け情報

https://www.tatsumi-kagaku.com/public/info_medical/information.php 参照)

6. 同一成分・同効薬

同一成分薬：マイスリー錠 5mg/錠 10mg

同効薬：ニトラゼパム、フルニトラゼパム、トリアゾラム など

7. 国際誕生年月日

該当資料なし

8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日

販売名	製造販売承認年月日	承認番号	薬価基準収載年月日	販売開始年月日
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」	2012年2月15日	22400AMX00524000	2012年6月22日	2012年6月22日
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」	2012年2月15日	22400AMX00525000	2012年6月22日	2012年6月22日

9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は厚生労働省告示第 97 号（平成 20 年 3 月 19 日付、平成 18 年厚生労働省告示第 107 号一部改正）に基づき、1 回 30 日分を超える投薬は認められていない。

13. 各種コード

販売名	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	個別医薬品コード (YJ コード)	HOT 番号 (9 桁)	レセプト電算処理 システム用コード
ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」	1129009F1017	1129009F1165	121561801	622156101
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」	1129009F2161	1129009F2161	121562501	622156201

14. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) 社内資料：安定性試験（錠 5mg）
- 2) 社内資料：安定性試験（錠 10mg）
- 3) 社内資料：溶出試験（錠 5mg）
- 4) 社内資料：溶出試験（錠 10mg）
- 5) 第十八改正 日本薬局方解説書. 廣川書店.2021：C3033-C3038
- 6) 社内資料：生物学的同等性試験（錠 5mg）
- 7) 社内資料：生物学的同等性試験（錠 10mg）

2. その他の参考文献

該当資料なし

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(1) 粉碎

粉碎時の安定性試験結果

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

保存条件	試験項目	規格	結果		
			開始時	2週間	4週間
25±1℃ 75±5%RH 遮光 開放	定量 (%)	95.0%~105.0%	101.5	99.4	99.6

●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

保存条件	試験項目	規格	結果		
			開始時	2週間	4週間
25±1℃ 75±5%RH 遮光 開放	定量 (%)	95.0%~105.0%	100.8	98.1	99.2

(2) 崩壊・懸濁性および経管投与チューブの通過性

「内服薬 経管投与ハンドブック 第二版(監修：藤島一郎、執筆：倉田なおみ)、じほう」を参考に、製剤の崩壊・懸濁性および経管投与チューブの通過性の試験を行った。

試験方法

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、ディスペンサー内に製剤をそのまま1個入れてピストンを戻し、ディスペンサーに55°Cの温湯20mLを吸い取り、筒先に蓋をして5分間自然放置する。5分後にディスペンサーを手で90度15往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察する。5分後に崩壊しない場合、更に5分間放置後、同様の操作を行う。それでも崩壊懸濁しない場合は、この方法を中止する。中止した製品は、破壊（乳棒で数回叩く）後、上述と同様の操作を行う。

得られた懸濁液を経管チューブの注入端より、約2~3mL/secの速度で注入し、通過性を観察する。体内挿入端から3分の2を水平にし、他端（注入端）を30cmの高さにセットする。注入後に適量の水を注入して経管チューブ内を洗うとき、経管チューブ内に残存物がみられなければ、通過性に問題なしとする。

判定方法

水（約55°C）

製剤を55°Cの温湯20mLに入れ、5分または10分放置後に攪拌したときの通過性
破壊→水

製剤を破壊した後に、55°Cの温湯20mLに入れ、5分または10分放置後に攪拌したときの通過性

○：経管チューブを通過

△：時間をかければ崩壊しそうな状況、または経管チューブを閉塞する危険性がある

×：通過困難

結果

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 「TCK」

経管チューブサイズ	水（約55°C）		破壊→水	
	5分	10分	5分	10分
8Fr.	○			

●ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg 「TCK」

経管チューブサイズ	水（約55°C）		破壊→水	
	5分	10分	5分	10分
8Fr.	○			

2. その他の関連資料

該当資料なし